

クリ「利平」の結実安定法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

利平は他の品種に比べて、品質が優良で果皮色が美しいため市場評価が高く、本県の主要品種として振興されている。しかし、生産面では、結実が不安定で収量が低く、商品果率も低い。

低収量の一因として不授精果の割合が高いことが考えられるので、受粉品種が結実、品質、収量に及ぼす影響を調査し、好適受粉品種について検討した。

研究の成果

1. 結実歩合

交配親として丹沢、国見、筑波、銀寄、石鎚、利平、自然受粉の各処理区を設けて検討したところ、筑波との交配組み合わせ区が最も結実歩合が高く、利平の自家受粉区が最も低かった。

2. 含果数と果実の大きさ

平均含果数も筑波受粉が最も多く、利平の自家受粉区が少なかった。

果実の大きさは交配親の大きさに正比例し、交配花粉の影響が種実にあられるキセニア現象が確認され、果重は利平の自家受粉、国見、筑波受粉で30%の大果となった。

3. 果実品質

裂果の発生は、自然受粉、利平の自家受粉で少なく、他の交配品種の中では銀寄で少なく、他の品種は差が見られなかった。果実比重は、明かな差は見られなかった。

4. 以上の結果、収量安定と大果生産のためには混植が必要で、その場合の受粉樹としては筑波が好適受粉品種と考えられる。また、丹沢、国見、銀寄においても実用上では問題はない。

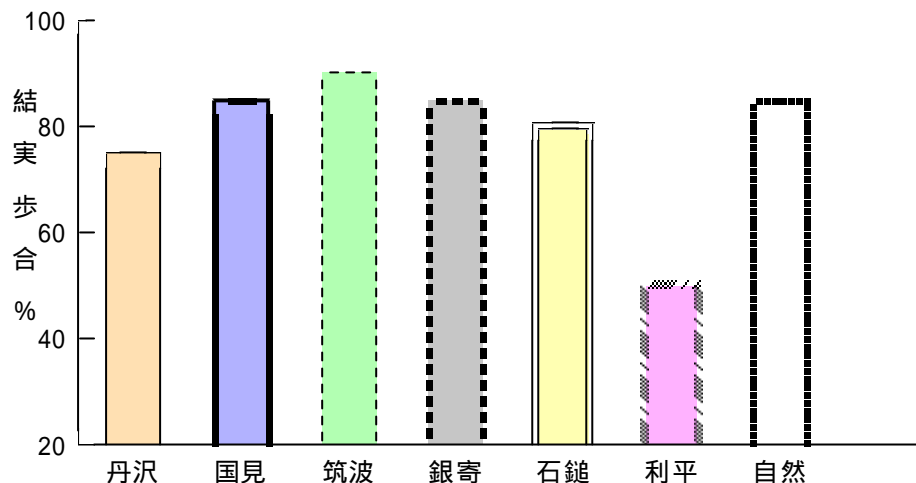


図1 受粉品種の違いと結実歩合

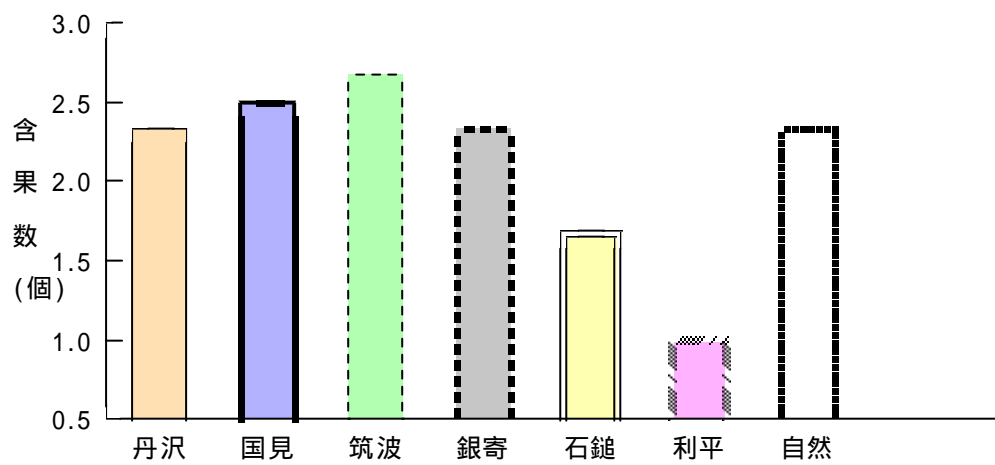


図2 受粉品種の違いと含果数

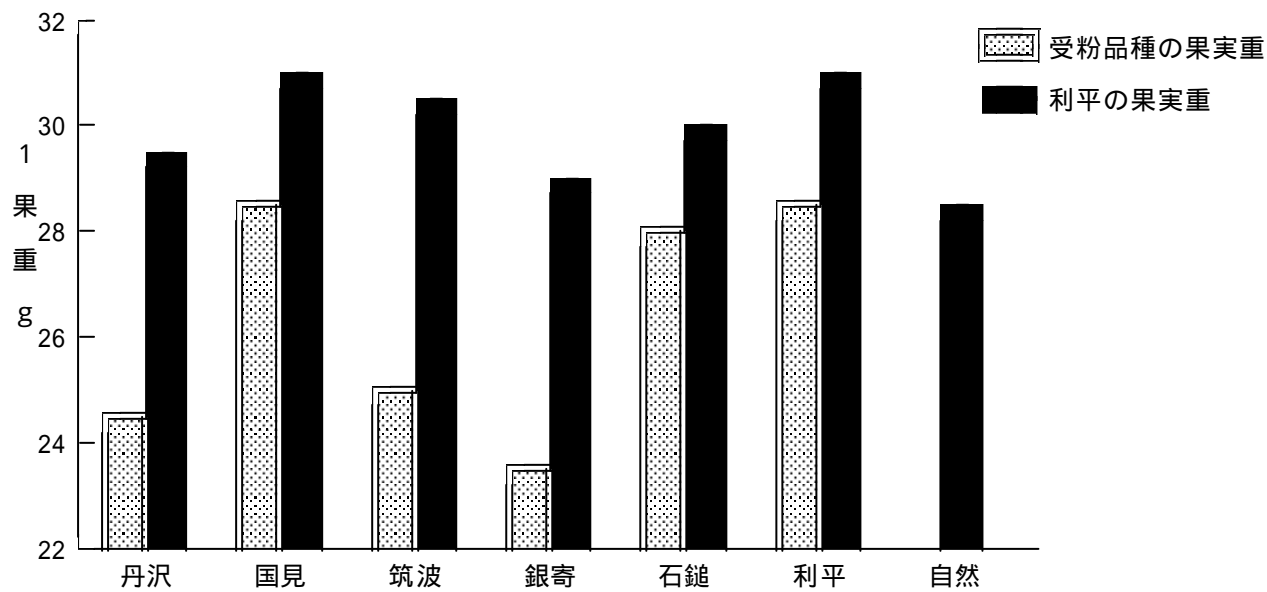


図3 受粉品種の違いと果実重